

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達）

○事業所名	てとてきっず		
○保護者評価実施期間	令和7年1月16日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年1月16日		～ R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様との連携と支援	○日頃お忙しい保護者様に対して、公式ラインでの毎月のお便りの配信や活動へのお誘いなど連絡体制の工夫を行っている。保護者様が日頃から慣れていらっしゃるツールを活用して手間がかからない連絡手段の工夫を行っている。	○活動内容が十分に保護者の皆様にお伝えする事が出来ていない部分がある為、公式ラインでの内容を更に充実させ日頃の活動を保護者様へ配信する。
2	経験豊富なスタッフ	○年齢にとらわれず幅広い年齢層のスタッフの雇用 ○在籍年月の長いスタッフが多い	○若いスタッフも経験豊富なスタッフも共に学び安心した支援の提供が出来るようにスタッフ間も関係を深めていく。 ○定期的な勉強会を開催し、スタッフの学びを深めて学びを保護者様へフィードバック出来る仕組みの強化。 ○長く勤務して頂きやすい環境、関係の構築を図る
3	幅広い支援を一貫して提供できる	○児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護が連携しているために、幼少期から成人期まで継続した支援が可能。保護者会などを事業所合同で行い子どもの成長に応じた情報交換を保護者様同士で行うことが出来る。	○児童発達支援の幼児期に必要な支援内容と、放課後等デイサービスの学童期に必要な支援を明確にし幼児期からの発達促進と環境調整を行っていく。支援内容を更に専門性を増したものにす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの改善	○対象年齢の幅が広く必要な備品が増えてきた。 ○活動内容が色々ある	○机の配置や、可動式家具などの導入で柔軟なスペースの確保が必要。 ○活動内容によってエリアを分けることで効率的なスペース利用を工夫する。 ○てとてきっずでの活動を更に専門性を持たせて活動に必要な備品を限定させる。
2	活動の可視化	○保護者様は、お迎えに来られる方が少なく活動の様子、事業所の雰囲気等を感じる機会が少ない ○活動見学会などの活動を見て頂く機会を設けていない ○月のお便りの中の写真で活動の様子を載せているが十分には伝わっていない	○活動見学会の定期開催 ○お便りや公式ラインで活動の様子を写真付きで配信 ○児童発達支援計画書の達成状況を保護者様にわかりやすくフィードバックする仕組みを作る
3	保護者交流の促進	○コロナ禍で保護者会の様な沢山のひとのかかわりの活動を控えてきた。 ○個別での、対応が出来ていた為に、保護者様同士の関わりを問題視できていなかった。	○児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、相談事業所との連携強化を図り、各事業所の保護者様の関わりを設けて先輩保護者の話を聞くことで進路や支援の選択肢について考える機会を設ける。